

# ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

## 第42回 全国酪農青年女性酪農発表大会 ②

管理部だより

### ウィンドウズXPサポート終了問題

日本国民を守る「全国酪農民大会」開催 !!

酪政連活動報告



酪農トピックス /  
牛舎屋根への石灰塗布で牛の暑さ対策（飛騨酪農協より）ほか  
日本酪農見て歩紀（福岡県那珂川町 藤野和有基牧場）



9

2013 September No.576



全国酪農業協同組合連合会



# 第42回 全国酪農青年女性酪農発表大会

## 酪農意見・体験発表の部

# 最優秀賞に山口やよいさんが輝く!!



九州酪農青年女性会議

先月号に続き、今月号では7月11日(木)～12日(金)熊本県熊本市「ホテル日航熊本」にて開催された第42回全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農意見・体験発表の部を、審査講評を中心に紹介します。

### 意見・体験発表の部 審査講評

小林 信一 審査委員長



### 「スローライフミルクネット」のNPO活動から

～牛乳産業の未来のために～

九州酪農青年女性会議 山口 やよい氏



北海道釧路の酪農家出身の山口さんが、牛ならぬ馬の縁で九州熊本の非農家出身の夫と酪農を開始することに。5頭から出発した酪農経営も現在は経産牛64頭までになり、長女夫妻が工房とカフェも開設して、ミルクがつくる暮らしの楽しさを伝えるまでになりました。

の普及活動に取り組み中で、カッテージチーズから手軽にモッツアレラチーズができることを発見し、NPO「スローライフミルクネット」を設立して、市販の低温殺菌牛乳を使って家庭でモッツアレラチーズを作る活動に熱心に取り組んでいます。「牛乳利用の原点に帰ろう」という思いがあふれた発表でした。

## 牛に導かれ、人に支えられて

関東甲信越酪農青年女性会議 柳澤 聡氏



大学卒業後自衛隊に入隊しましたが、ケガなどもあって退官し、定職にもつけず世の中からドロップアウトしたとまで思うようになりました。縁があつて、酪農家の従業員から現在の奥さんに出会つて、酪農家となった柳澤さんですが、酪農が天職であつたと感じさせました。何事にも、パチンコも含めて真摯に取り組む柳澤さんは、酪農に出会うことでそ

の才能を大きく開花できたのでしよう。「酪農に出会つていなければ、今頃どうなつていただろう」と「心配」する声が出たほどでしたが、酪農の素晴らしさを再認識させられた発表でした。また、地域へ溶け込もうとする柳澤さんのひたむきさを聞くにつけ、地域にとって柳澤さんは大きな宝といえる存在になっているのだらうと思われました。

## 「平成23年からの復活」

〜きずな〜

東北酪農青年婦人会議 佐藤 みゆき氏



非農家出身で、農業短大畜産科を卒業後地元で就職しましたが、学生時代の北海道での実習が忘れられず、北海道で2年間の酪農実習を経て、酪農家になりたと母親に紹介された現在の夫と結婚して、晴れて酪農家になった佐藤さん。しかし大きな試練が待ち受けていました。23年の大震災による被害から完全に立ち直れない6月に、牛舎が30頭の牛とともに全焼してしまいました。くじけそうな心を、実習先の酪農家や酪農ガールズの仲間、地域の人々など様々な人に支えられ再開を果たした佐藤さんは、この試練の中でご主人や子供たちなど家族の絆も

深め、酪農の魅力を再確認した、そんな発表でした。



## お父さん働きすぎじゃない

〜私に出来た小さな改革〜

中部酪農青年女性会議 佐々木 千尋氏



日本青年館が企画した酪農体験ツアーが縁で、富士宮市の丸西牧場に嫁いだ佐々木さん。看護師の経験を活かして、従業員とのコミュニケーションを図るために、作業のマニュアル化を提案し、実行。規模拡大によって実習生や雇用労働者を加えた多くの経営にとって模範とな

るものとして、審査員から高い評価があられました。ちなみに、酪農体験ツアーを企画したのは、審査員の一人である板本さんであるとのこと、板本さんも現在の丸西牧場の生みの親の一人と言えるかもしれません。人の縁を考えさせる発表でもありました。

## ベストパートナーとして

北海道酪農青年女性会議 浦 好恵氏



大阪市の非農家出身の浦さん。ソロツリーングで気に入った北海道美瑛でバイトしている時にご主人と出会い、結婚。4人の子どもにも恵まれ、姉や両親も美瑛に移

住して、持ち前のバイタリテイを発揮して、酪農に取り組み生き生きとした姿が印象的な発表でした。さすが「浪速っ子」と思わせる、力が湧いてくる発表でした。

## 家族で支えあつて

西日本酪農青年女性会議 坂手 美智子氏



岡山の非農家出身の坂手さんは、大阪での仕事を辞めて、見合いで実家近くの酪農家に嫁ぐことに。酪農家に嫁ぐことにそれほどこだわらぬ、覚悟もなかったようですが、結婚後は驚きの連続だったようです。しかし、「両親や主人のお手伝

いじゃなくて私自身が酪農家になる」と覚悟をし、がんばる坂手さんの姿が目につかぶ発表でした。流産の多発などの困難にも、家族一丸となって乗り越え、ピフジャーキーやチーズの加工販売などにも取り組む坂手牧場の今後が期待されます。

来年は、7月17日(木)～18日(金)に宮城県仙台市「ホテルメトロポリタン仙台」にて開催予定となっております。皆様にお会いできる事を楽しみにしております。

今回は、非常に粒ぞろいの発表ばかりで審査員泣かせでした。みなさんの発表のどれもが、酪農と家族への愛を非常に感じさせるものでした。6人中5人は非農家出身者で、酪農を行うに当たってご結婚を決められているので、審査員の中でも相手が気に入ったのか、酪農をしたかったから結婚したのか、との失礼な「疑問」も出されるほどでしたが、「酪農をしているお相手に惚れたのではないか」との結論に至りました。酪農は人を輝かせるものという、酪農の魅力を十分に伝えてくれる発表でした。

以上の発表について、「酪農との関わり」「周囲とのつながり」「活動の広がり」「目標と夢の実現性」という4つの審査基準に照らして審査いたしました。どの発表もこれらの審査基準を満たしているものでしたが、特に「活動の広がり」という点で、低迷する牛乳消費に一石を投ずる可能性を持ち、酪農界全体で取り組む価値のある活動であるということに鑑み、九州酪農青年女性会議の山口やよいさんを最優秀賞とさせていただきます。

## 各会議の集合写真



▲ 関東甲信越酪農青年女性会議



▲ 東北酪農青年婦人会議



◀ 中部酪農青年女性会議



北海道酪農青年女性会議



西日本酪農青年女性会議

# 新規就農 経営移譲

## を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

### 酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

### 全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Befarmer/index.php>

全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

↓  
右下リンク

↓  
新規就農情報【(-)酪農ヘルパー全国協会】  
新規就農情報【全国農業会議所】

▶ 熱心に聞き入る様子



▲ 会場の様子



▲ デモ行進

7月31日(水)、東京都千代田区自由民主党本部にて、日本酪農政治連盟(佐々木勲委員長)主催による「日本酪農を守る全国酪農民大会」が開催され、全国各地より約1,000名の酪農家及び酪農関係者が集結しました。

挨拶を行った佐々木委員長は、「円安による影響で飼料や生産資材が高騰し、経営に対する不安は高まっている。政府には7・9月の飼料高騰対策として101億円を措置してもらい、また指定団体の努力により飲用乳価交渉も5円/kg上げで決着したが、今後経営を継続す

るためにも酪農対策をしっかりと求めたい。TPPでも、国益を損なわぬ交渉となるよう強く要請する。希望と魅力ある酪農産業としたい」とし、酪農対策の徹底を訴えました。

大会には、多くの国会議員が駆けつけ、酪農家の代表者6名による支援策への訴えもありました。

その後、ガンバロー三唱が行われ、デモ行進へ移りました。自民党本部近くから代々木公園までの道を、「少し高くても栄養価の高い牛乳をもっと飲んでください」と訴えながら、シユプレヒコールを挙げて理解を求めました。

## 日本国民を守る 「全国酪農民大会」開催!!



▶ 佐々木委員長による挨拶

# ウィンドウズXP サポート終了問題

— いつ買い換えるのが良いのか？

「今でしょう」でなくとも良い —

今年のGW前に新聞・ニュースを賑わせた話題ですが、実は本会も他人事ではありません。会員組合・酪農家の皆さんのパソコンは、どうでしょうか？



Windows XPサポート終了

## 1 ウィンドウズXPとは？

マイクロソフト社が2001年に発売したパソコンを動かすソフトです（XPなどと言うから判り難いので、「2001年式ウィンドウズ」とすれば、分かりやすいですね）。後継ソフトがウィンドウズVista（2007年式）、ウィンドウズ7（2009年式）、ウィンドウズ8（2012年式）と続きます。

過去の日本の自動車会社が、3年毎にマイナーチェンジして、5年毎にフルモデルチェンジしたように、どんどん新しい機能を持つと同時に、使われなくなった機能を外したソフトが配信されています。ウィ



Windows XP



Windows 7



Windows 8

引用元: <http://blogs.windows.com>

## 2 サポート終了とは？

ウィンドウズXPは、2001年に発売して、メインストリームサポートが2009年で終了（後継ソフトの発売後1年以上経過）。さらに延長サポートが2014年4月8日で完全に終了する予定となっていますので、後継ソフトが発売されて、7年程度は無償でサポートしていたことになります。

パソコンソフトのサポートで、最も重要なものはセキュリティ機能のサポートです。

本来、ソフトには、ウイルス感染やネットを介した他のパソコンからの他人の侵入を一定の度合いで保護

してくれる機能がありますが、その保護機能の更新がサポート終了と同時に停止します。また、システムの不具合が見つかった場合の補修もされません。

つまり分かりやすく言うと、2001年式のソフトはこれまで通り機能しますが、故障時の交換用の部品は生産されず、エアバックやシートベルトなどの安全機能が使えない状態で走行する感じに近いといえます。

サポート終了後は、非常に不安定な状況での稼働となります。いまやパソコン無しでほとんどの事務処理は進みませんから、ソフトとソフトを動かすパソコン機器は、更新したほうが良い時期なのかもしれません（ウィンドウズ ソフトの問題だ

けなら、ソフトの更新だけで済みますが、前述の通り後継ソフトは新しい機能がついていきますので、パソコンも更新したほうが無難なようです。

ところが調べてみますと、日本中でXPで稼働しているパソコンは1,400万台もあるそうです。一度に更新するには、あまりにも大きな台数です。

全酪連グループの場合も、過半数の418台がXPのソフトで稼働しています。また、この数は後継ソフトを単純に使用できない機能のパソコンでもあります。更に会計ソフトなど、業務関連の他のソフトの多くがXP対応で作られており、後継ソフトで起動することは確認できませんが、不具合が無いかどうかの詳細確認には手が回っていません。つまり、418台のパソコンとソフトの更新は、費用的に困難なだけでなく、システム稼働の確認上でも、容易ではありません。費用的にも、確認作業の都合からも時間を稼いだり状況です。

前述の通り、ウィンドウズXPのサポート終了で、もつとも心配されるのが、「パソコンのセキュリティ（安全確保）」ですが、XPソフトの持つ安全維持機能は更新されない状態ですから、ウィルス対策ソフトで対応できないかと調べてみました。

皆さんのお使いのパソコンにもセキュリティの補助として、後述のソフトがインストールされているのではないのでしょうか？ウィンドウズのサポートが終了しても、ウィルス対策ソフトの会社が守ってくれば、時間を稼げるかもしれません。

### 3 ウィルスソフトによる対応

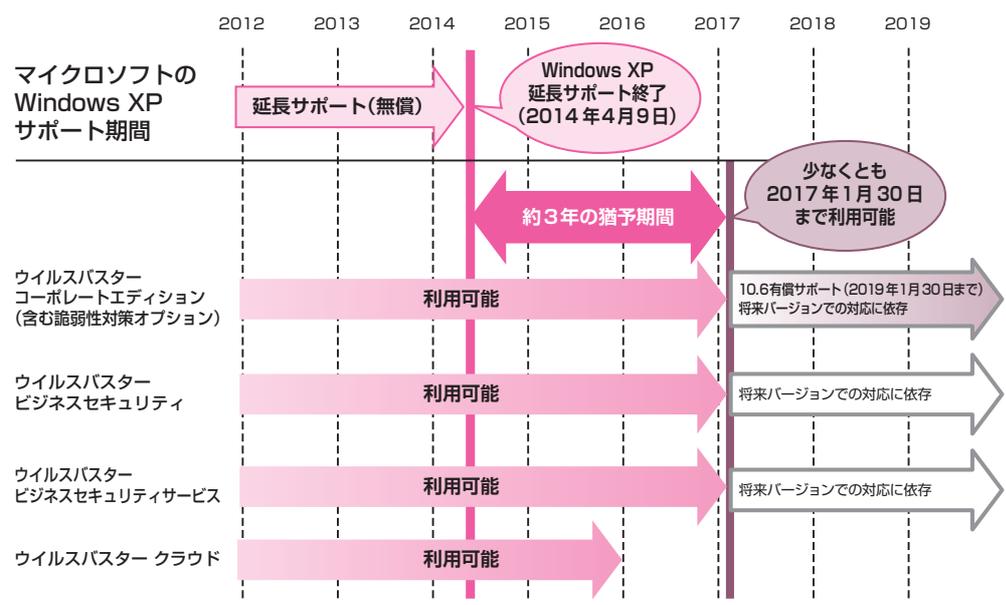
● **ノートン（シマンテック社）**  
最新版の「12・1」は2018年7月5日までサポートする予定。  
引用元：<http://www.symantecstore.jp>

● **ウィルスバスター（トレンドマイクロ社）**  
最新版の「10・6」は2017年1月30日まで無償サポート。各製品について無償サポート終了後、有償の延長サポートを用意する予定。  
引用元：<http://virususter.jp>

● **マカフィー（マカフィー社）**  
サポート終了時期は未定。  
引用元：<http://home McAfee.com>

つまり、一定の期間はこれらウィルス対策ソフトを使って、セキュリティが維持できるかもしれません。ただし、これは自動車メーカーの旧式車種を、他の部品メーカーがサ

トレンドマイクロ社のウィルスソフトによるサポート対応年数



利用可能なバージョンは各製品のライフサイクルおよびシステム要件に依存する

注：OSに依存する内容については、調査、修正ができない場合がある  
引用元：[http://jp.trendmicro.com/jp/products/enterprise/corp\\_xp/](http://jp.trendmicro.com/jp/products/enterprise/corp_xp/)

ポートすると言っているだけのことで、使えはしますが、どこまで安心できるのか？疑問が残ります。基本的には、パソコンのリース期間は5年。概ね5年で費用的にも償

却できると認識されています。多くの数を一度に更新することは、大きな出費を伴いますので、早い内に必要経費として順次更新したほうが良いようです。

札幌支所発

「祭りinほろろ」開催



7月30日(火)に北海道鶴居村幌呂農村環境改善センターで、「第12回祭りinほろろ」が開催されました。当日はあいにくの大雨でしたが、地元住民約300人が集まりました。当日は釧路丹頂農協青年部

と女性部による模擬店が開かれました。本会釧路事務所も参加し、本会製品のゴーダチーズやスモークチーズ、国産牛を使った酪農家カレーの販売を行い、好評を博しました。(T.K)



▲ 会場の様子



◀ スーパーボールすくいを開きました



▼ 酪農家カレーの販売

札幌支所発

「酪農研修会」開催

8月8日(木)～9日(金)、北海道帯広市とかちプラザにて「全酪連札幌支所酪農研修会」が開催され、北海道内農協職員と普及指導員、全酪連職員合わせて50名が参加しました。当日は、講師として十勝農業協同組合連合会フィールドアドバイザー村上明弘先生と全酪連成田修司技術顧問を招き、講演をいただきました。

村上先生からは「酪農現場アプローチのためのスキルアップ」と題し、酪農現場での酪農家とのコミュニケーションの取り方や、現場に立つ者の考え方や心構えについて解説いただきました。また、成田技術顧問からは「移行期管理で繁殖効率を上げる」として、移行期における管理特性についてお話をいただきました。

講演後は現場での悩みや疑問などが参加者から投げかけられ、活発な意見交換が行われました。

(T.K)



◀ 村上先生



成田技術顧問 ▶



▲ 講演の様子

札幌  
支所発

## 「北海道・都府県畜産主任者会議」開催

8月2日(金)、札幌市京王プラザホテル札幌にて「北海道・都府県畜産主任者会議」が開催されました。この会議は道産初妊牛の資源状況と購買動向について意見交換するもので、今年は全国から乳牛購買担当者など68名が出席しました。

会議では都府県担当者より各地の今後の導入動向

についての報告があり、北海道各地域の代表者からは道内資源状況が報告され、活発な意見交換が行われました。また、本会酪農部池浦靖夫部長より、「最近の生乳需給と乳製品をめぐる情勢について」と題し、国内の生乳生産量から需給状況の推移、乳製品の状況やTPPについて講演がされました。(T.K)



▲ 講演する池浦部長



▲ 意見交換の様子



▲ 会議の様子

名古屋  
支所発

## 中部酪農青年女性会議「夏の親子交流会」を開催 — 夏の暑さにも負けず —

8月11日(日)、中部酪農青年女性会議(大井幸男委員長)は愛知県酪農農業協同組合青年女性部(青木隆明委員長)との共催のもと、「夏の親子交流会」を愛知県青年の家(岡崎市)において盛大に開催しました。当日は猛暑にも拘わらず、会員の家族・組合職員および中部酪農青年女性会議役員等35名の参加がありました。

今回の「夏の親子交流会」は、中部酪農青年女性会議が例年開催していた「酪農家子弟交流会」の中止に伴う行事ではありましたが、日頃交流の少ない会員の家族・組合職員、そして関係者が一堂に会し、酪農に関する情報交換等を通して、親子と酪農家同士の親睦を深めた交流会となりました。

当日は、夏の暑さにも負けずバーベキューを満喫し、その後のビンゴ大会で景品をゲットし、子供たちも大人も笑顔の絶えない楽しい1日となりました。

(O.M)

楽しい▶  
ビンゴ大会



▲ 楽しく遊ぶ子供たち

飛騨酪農協より

## 牛舎屋根への石灰塗布で牛の暑さ対策

— 飛騨酪農農業協同組合 青年部・検定組合 —

各地で記録的猛暑となっている今年の夏。山間地域である飛騨高山でも気温の高い日が続いています。人間と同じように動物たちにも快適温度があり、乳牛は暑さに弱い<sup>かんれいしや</sup>ため、日差しの強い場所へのグリーンカーテンや寒冷紗<sup>かんれいしや</sup>の設置、送風ファンなどの対策にもかかわらず、ストレスで体調が悪化し、畜舎内の温度の上昇は牛の体調や生産性、繁殖成績の低下など多くの影響を及ぼします。

そこで、8月13日(火)飛騨酪農乳用牛群検定組合員・飛騨酪農青年部が中心となり、3年前からの取り組みである牛舎屋根に石灰を塗布し、乳牛の暑さによるストレスを少しでも和らげる対策を行いました。

今回は新宮町の五反田和幸さんの牛舎で、500㎡の屋根を酪農家6名、組合職員2名で約2時間かけて塗布専用石灰を塗布しました。屋根に水で溶いた石灰を動力噴霧器で散布して覆い、全面白色にす

ることで、屋根に当たる光を反射し、熱による温度上昇を和らげます。塗布前との比較では、牛舎内温度は約3℃低下しました。なお、塗布面積あたりのコストは㎡あたり約21.7円でした。また、余った石灰を利用して牛舎出入り口の消毒、子牛の病気の予防のためにハッチの消毒を行いました。

関係者は、「今年の夏は酷暑で出荷乳量も大幅に少なくなり大打撃を受けている。この夏は石灰塗布の取組みやファンの増設、牛舎へのグリーンカーテンの利用などをして、より快適な環境で生産性を維持していきたい。この取組みがよい結果を生み、牛たちがより快適に過ごす環境を作ってあげたい」と効果に期待を寄せています。

(飛騨酪農農業協同組合 酪農部 丸山雅義)



▲ 牛舎屋根への石灰塗布作業

名古屋  
支所発

## 「岐阜県ホルスタイン改良同志会 交流会」を開催

— 牛に感謝 家族に感謝 仲間感謝 —

8月5日(月)に「岐阜県ホルスタイン改良同志会(渡辺修一郎会長)の夏季交流会」が盛大に開催され、会員、会員の家族、組合職員および関係者17名が参加しました。

当交流会は岐阜県ホルスタイン改良同志会が毎年開催し、日頃はなかなか会えない会員の家族・組合

職員・関係者が集合し、酪農情報の交換や近況を報告しあい、親睦を深める大変良い機会になりました。

当日は川のせせらぎの中、バーベキューや、ビンゴ大会で豪華景品を狙い、みんなの笑顔あふれる楽しい夏の1日となりました。

(飛騨酪農農業協同組合 酪農部 丸山雅義)



◀ ビンゴ大会に夢中!



川で手づかみした「あまご」▶



▲ 藤野 和有基さん

No.244  
かずゆき  
藤野和有基牧場  
福岡県那珂川町

## 飼養管理の徹底と自給飼料活用による 堅実な酪農経営

### 地域の概況

那珂川町は福岡県の西部にあって、福岡市の都心部からわずか13kmのところに位置し、東部は春日市、大野城市、筑紫野市と、南部は佐賀県、北部・西部は福岡市に接し、南部は三方を背振連山に囲まれ、ここに源を発する那珂川が町の中央を南北に貫流し博多湾に注いでいます。福岡市の都心部から至近の距離にあり、また博多駅より最寄駅である新幹線博多南線「博多南駅」約10分という交通の利便性も手伝って、年々人口が増えつつあります。

藤野牧場が所属するふくおか県酪農業協同組合（尾形文清代表理事組合長）は平成19年4月に発足した県1本の酪農専門農協で、酪農家戸数262戸、生乳販売数量87,792t（平成24年度実績）となっています。

### 経営概況

藤野さんの家族構成は、経営主の和有基さん（42歳）、奥さんの由紀さん（40歳）、長女（15歳）、長男（6歳）の4人家族です。牧場での作業については和有基さんと弟の由紀雄さん（42歳）、そして2名の従業員で担当しています。

飼養頭数は搾乳牛90頭、育成牛60頭（育成牛のうち20頭は北海道預託）



で、年間出荷乳量は890t（平成24年実績）です。搾乳牛はフリーストール牛舎、育成・乾乳牛は旧搾乳牛舎でそれぞれ管理しています。

飼料給与はTMRで、全酪連が供給するTMRベース飼料、ラクトミックスと購入乾牧草（ルーサン・オートツハイ・クレイングラス）、そして自家産のイタリアン（冬季はホールクロップサイレージ）を混合調整し、1日2回給与しています。

### 牧場の沿革

— 両親の背中を見て就農を決意 —

藤野牧場の歴史は、和有基さんの父親が昭和36年に経産牛1頭を導入したことからはじまりました。当時は酪農と野菜、水稲の複合経営でした。その後、放牧による酪農を経営の中核とするために昭和46年に30頭の牛舎を新築しました。

和有基さんは幼少のころから酪農



アプレストパーラー

に興味を持ち、ほとんど毎日牛舎に入っていたそうです。牛舎で働く両親の格好良さと、牛のパワフルさに魅かれ、いつか酪農をしたいという気持ちはずっと持っていたそうです。そして、高校を卒業した平成元年に北海道へ研修に行き、平成3年に就農しました。就農当時は和有基さんと弟の由紀雄さんとお兄さんの3人兄弟が中心となり経営を行っていましたが、和有基さんが22歳の時にお兄さんが外へ勤めに出るようになり、以後和有基さんと由紀雄さんの2人が中心となって経営を行うようになりました。平成8年に結婚さ



育成牛舎

れ、フリーストール牛舎を新築。平成11年にお父さんより経営を移譲され、この年にフリーストール牛舎での飼養に転換しました。これに合わせてフリーストール牛舎の横に2頭ダブルのアプレストパーラーを設置する事になりましたが、完成までの間は旧つなぎ牛舎まで牛を移動させて搾乳を行っていました。距離が100m、高低差15mの道を毎日移動させる事に少し心配もあったそうですが、特に大きな問題はなかったとの事です。アプレストパーラー完成後は1頭当たり2〜3kg程乳量が増えたそうです。またここ数年の猛暑による暑熱ストレス緩和のために、扇風機の増設も行っています。今年の福岡は例年のない猛暑に見舞



ロール

われ、牛への影響が心配されていますが、藤野牧場の牛舎内は風が行き届いておりとても涼しく、牛たちも取材時はしっかりとエサを食いこんでいました。

### 経営の特徴

和有基さんは、就農後5年ほど自給飼料生産を行っていました。和有基さんが研修に行かれた北海道の牧場は道内でも有名な高能力牛群による経営を行っていて、出来るだけ牛舎に居て、高品質な若刈りの牧草を食わせ込んでいたそうです。研修から戻られた後、和有基さんは、粗飼料の半分は自給飼料で、という考えのもと、借地の水田裏作で7haの基盤を確保し、ロールパーラーを導入



ミキサ

し自給飼料生産に取り組みました。平成8年には、多回給餌による負担軽減とさらに多く食い込ませるためにミキサーを導入し、TMR給与を開始しました。しかし、水田裏作は湿田で、5月の連休明けには水田を返さねばならないという条件下では良質な自給飼料生産は難しく、さらに作業面でも肝心の牛の管理に時間が取れなくなってしまうこと、また当時輸入粗飼料が安価で安定したものが入手しやすかったことや天候の問題から、平成11年に自給飼料生産を殆どやめ、購入飼料依存型の経営に転換しました。

しかし、和有基さんには自給飼料生産を続けたいという気持ちが強く、かつ堆肥処理の問題もあり、何とか



搾乳牛舎から旧牛舎、ミキサーを見下ろす

自給飼料生産をしたいと考えられていたそうです。そこで、労力の軽減を図るために、平成19年に近辺の酪農家の仲間、野菜農家と共にコントラクター組合を結成し、自給飼料生産を再開しました。現在ではイタリアン、大麦の他、水田の減反分を活用しホルクroppサイレージの生産にも取り組んでいます。今でも和有基さんの自給飼料へのこだわりは変わっておらず、イタリアンは早刈りして高品質なものができるだけ多く給与するという手法を続けています。



堆肥調整施設

藤野牧場では堆肥の販売も積極的に行っています。以前は稲わら交換や自給飼料畑の還元が中心だったそ

### 堆肥の販売

また、和有基さんは繁殖管理にも重点を置いており、分娩後の初回発情は見逃さないように牛をチェックし種付けを行っています。分娩後1か月前後は必ず獣医師により診断を行っており、授精も弟さんが中心に行っております。

乳質についても細心の注意を図り、バルク乳スクリーニングテストを行い個体のチェック、搾乳機械、搾乳方法の見直しにつなげています。

### 今後の方針

取材の最後に和有基さんに今後の目標等をお聞きしましたが、今後規模拡大はあまり考えず、現状の規模を維持しつつ、飼養管理の徹底や高品質の自給飼料を確保しながら一層の経営強化に取り組みたい、そして生産量を何とか年間1,000t台にもっていける様にしたと語っておられました。

取材中、厳しい猛暑、そして生産資材の高騰等厳しい酪農情勢についての話題も所々出ましたが、和有基さんの終始穏やかな表情で、ご自分の酪農経営について自信を持ち、また前向きに語られている姿が印象に残りました。

藤野牧場のますますの発展を祈念し、取材を終えました。



搾乳牛舎

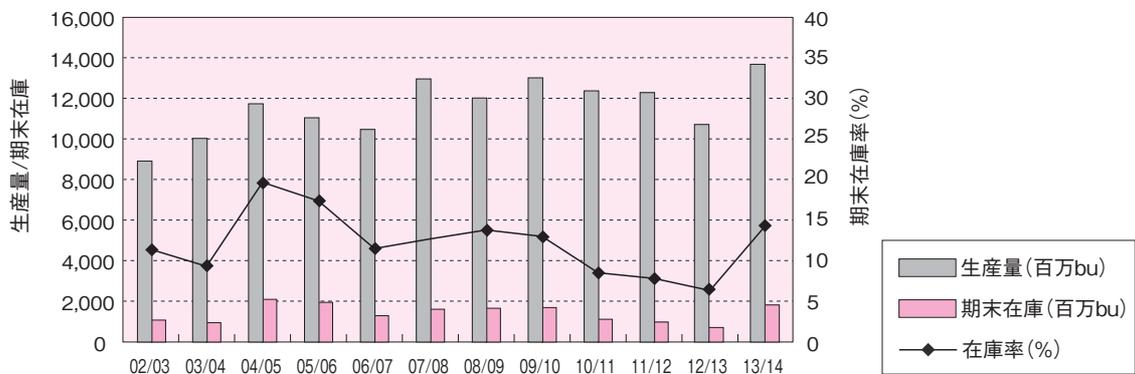


旧搾乳牛舎

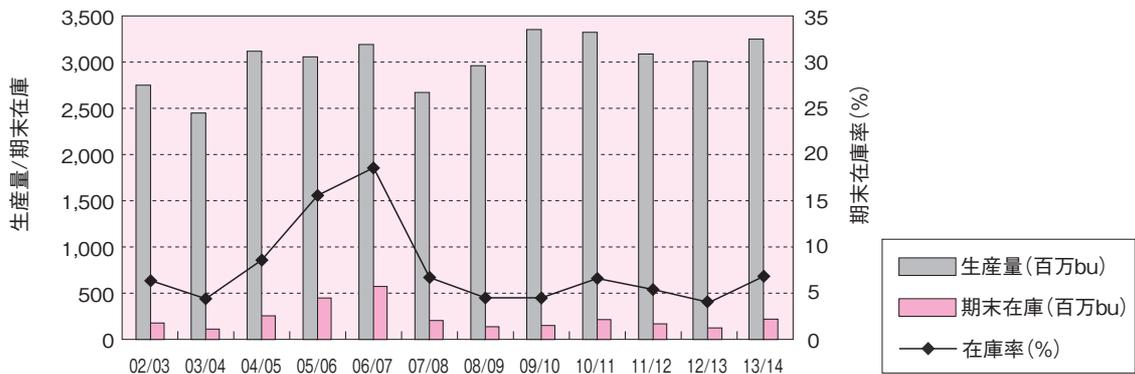
# 原料情勢 平成25年8月

8月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	<p>【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月97.2百万) エーカー、単収123.4(123.4) bu/エーカー、生産量107億8,000万(107億8,000万)bu、総需要量112億1,500万(112億)bu、期末在庫7億1,900万(7億2,900万)bu、在庫率6.4(6.5)%。</p> <p>【13/14年産】 作付面積97.4百万(前月97.4百万) エーカー、単収154.4(156.5) bu/エーカー、生産量137億6,300万(147億900万) bu、総需要量126億7,500万(127億5,000万) bu、期末在庫18億3,700万(19億5,900万) bu、在庫率14.5(15.4)%。</p>
トウモロコシ 相場動向	<p>受粉期を迎え好天候が続いたことから、560¢台から450¢付近まで値を下げたが、13/14年産の単収、生産量が下方修正され、また大豆相場高騰の影響もあり、現在は470～480¢の値動きを見せている。市場の中では、今回の米国農務省の単収・生産量の発表が過小評価しすぎているとの見方が強く、豊作が見込まれていることから軟調な推移が予想されるものの、産地の平年以下の気温が続いていることから今後の生育状況を注視したい。</p>
国内産大豆粕	<p>米国産大豆需給予想の13/14年は作付面積、収穫面積、単収が減少し大幅減となり、期末在庫見通しは2億2,000万(2億9,500万) bu、在庫率6.9(9.0)%となっている。直近の予想発表では値を上げたが、1か月の流れの中では大豆生産地の天候が生育に適した状況となっており、軟調に推移しているため、国産大豆粕価格も弱含みで推移している。今後生育の重要な時期を迎えるため、天候が相場を大きく動かす要因になると思われる。国産大豆粕発生量は大豆搾油採算の改善により増加傾向だが、以前の水準と比較すると低調な状況が続く。現時点で輸入大豆粕の入船は比較的安定しており、デリバリーに問題はない見込み。</p>
槽糖類	<p>フスマの発生量は減少傾向で推移している。使用量も減少しているが、需給はタイトである。輸入フスマが割高のため積極的に輸入する状況ではなく、今後使用量が増加すれば受け渡しに支障をきたす可能性がある。</p> <p>グルテンフィード発生量は増加傾向にあるが、需要もフスマの代替で旺盛であり、在庫は減少が見込まれる。現時点で受け渡しに問題はないが、国産の発生量も今後減少する見込みのため注意が必要。</p>
海上運賃	<p>原油相場は軟調に推移していたが、中国の貿易収支で良好な数字が出るなど景気が回復基調との見方から値を戻している。海上運賃は、米国の新穀出荷時期を迎え、また北半球が寒い時期を迎え石炭等のエネルギー需要が増加する可能性があることから、やや強含みの展開が予想される。</p>

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



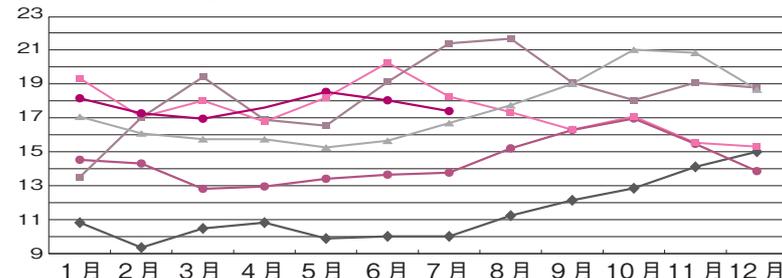
# 輸入粗飼料の情勢

平成25年8月

北米コンテナ船 フレート	7-9月分のBAF(燃料費調整係数:燃料価格変動に対して調整される割増運賃)は、7月から概ね\$9の値下げが実施されたが、多くの船会社で9月1日付でGRI(基礎レート)\$100値上げが発表されている。PSWのオークランド港ではターミナル合併の影響で混乱した状態が続いており、船積み遅延が多く発生している。PNWでも輸入量が輸出量に追いついておらず、空コンテナが不足した状態が続く。
米国の 乳価動向	昨年12月から低調に推移しているが、前年同月比では高い価格で推移している。米国内向けアルファルファの引合いが強まってきているとも伝えられているが、トウモロコシなどの穀類の相場価格が下がればアルファルファの引合いは弱まるのか、あるいは穀類の価格が下がるから逆にアルファルファの購買意欲は強まるのか、動きが読めない状況。
ビートバルブ	【米国产】13年産作付の進捗が遅れていたが、その後の生育は順調で、少しずつ遅れは回復してきている。砂糖の相場価格が低調に推移していることから、13年産の作付面積・生産量は減少することが予想されている。 【中国産ほか】中国産の13年産作付面積は、前年対比で10%減。国内市場の拡大が進み、国内向けの需要もさらに増えることが予想されているため、韓国や日本向けの輸出量は今後も限定的となる見込み。世界的に砂糖の相場価格が低調に推移していることから、欧州産の13年産作付面積も大幅減が予想されている。
アルファル ファヘイ	【ワシントン産】コロンビアベーンでは13年産の1番刈の収穫が終了した。今年も雨当たり被害が多く発生し、南部では90%が雨当たり品となった。ノーレイン品も、天候のタイミングを見計らって収穫したために刈遅れとなったスタックが多い模様。産地では、2番刈の収穫が終了し、3番刈の収穫が始まっている。2番刈は生育中に非常に暑乾燥した気候が続いたため、分析値があまり良くないスタックが多く発生している模様。 【オレゴン産】13年産の1番刈の収穫は、6月の降雨の影響で、クリスマスでは3割、クラムスフォールズでは1~2割の雨当たり被害が発生している。どちらも春先に冷涼な気候が続いたため、茶葉や茶色い茎が散見されるスタックが多い。 【ユタ産】1番刈の雨当たり被害はなかったものの、春先の冷涼な気候により単収減が伝えられている。現在2番刈の収穫が進んでいるが、5割の雨当たり被害が発生している模様。 【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、5番刈の収穫が進んでいる。品質が落ちてきているため、牧草向けより種取り用の圃場も多くなってきている。国内向け・輸出向けの需要はカリフォルニア中央から北部へ、あるいは他州へと広がり始めているとも伝えられている。
チモシー	【米国产】主産地のコロンビアベーンとエレンズバーグでは、全体の7~8割が雨当たり被害を受けている模様で、中間グレード品がブレグレード品に、というようにグレーディングがずれてきているとも伝えられている。軟化が予想されていた産地価格も堅調に推移し、史上最高値で推移することが予想されているため、買付け可能な価格帯でいられるのか動向に注意が必要。 【カナダ産】7月から1番刈の収穫が始まっているが、雨当たり被害が発生しており、ハイグレード品の発生は少ない見込みで、作柄はあまり良くないことが予想されている。米国のサプライヤーもハイグレード品の不足を補うために積極的に買付けに来ているとも伝えられており、米国产と同様に価格は手の届かないところまで高騰している。
スーダン	【インベリアルバレー産】1番刈の収穫は終了した。品質については、収穫前に暑い気候が続いたこともあり、茎サイズにバラつきがあり、茎細のプレミアム品も発生が少ない模様。産地では早播きの2番刈や、小麦収穫後に播種する遅蒔き(アフターウィート)の収穫が始まっている。例年より少し早い7月中旬に湿度が高くなり始めたため、茶葉混じりのスタックが多く発生している。軟化が予想されていた産地価格も、徐々に強含みに転じようとしている。
クレイン グラス	インベリアルバレーの7/15時点での作付面積は前年対比120%の16,942エーカー。3番刈の収穫がほぼ終了しており、早い圃場では4番刈の収穫が始まっている。1-2番刈は良品の発生が多かったものの、湿度が高くなり始めたため3番刈は色あせ(ブリーチ)が目立つスタックも増えてきている。
オーツヘイ	西、南、東の全ての輸出向け産地で、12年産はハイグレード品がほとんどで中間・ローグレードの発生量が少なく、雨当たり被害を酷く受けた11年産と真逆の作柄となった。一時期に比べると米国ドル対比で“豪州ドル安”で推移しており、日本側の輸入価格も若干弱含みで推移し始めている。産地では、13年産の播種が終了した。東豪州では5月まで乾燥した状態が続いており、播種の遅れと生育が懸念されていたが、その後は適度な降雨があり、生育は順調に進んでいる模様。キャノーラ(菜種)の相場価格が引き続き高値で推移していることから、13年産オーツヘイの作付面積は大きく減少することが早くも予想されている。

クラスⅢチーズ向け乳価の変動

100ポンド当たりの乳価(ドル)



仮に1\$=97円で17\$/100ポンドの場合  
(100ポンド≒45.359kg)  
17(\$) $\times$ 97円 $\div$ 45.359(kg) $\approx$ 36.35円/kg  
1kg $\approx$ 0.969リットルのため、約35.2円/  
リットル

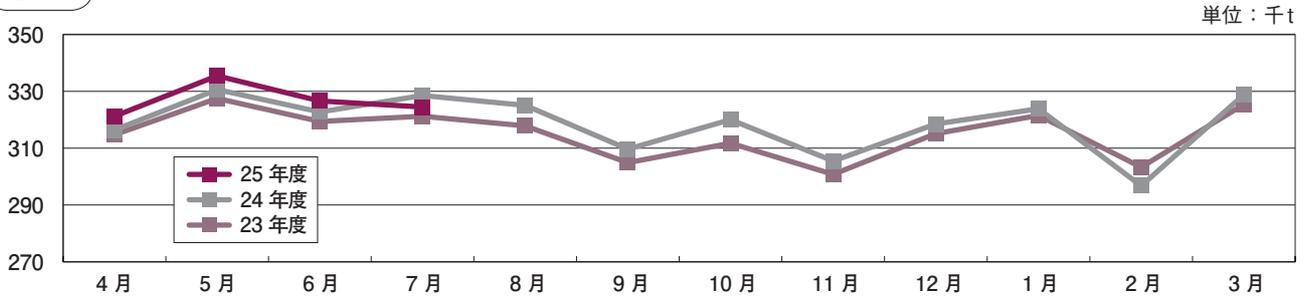
※あくまでも計算上であり、実際は州や市場によっても異なるため手取り乳価とは異なります。

# 生乳受託販売乳量

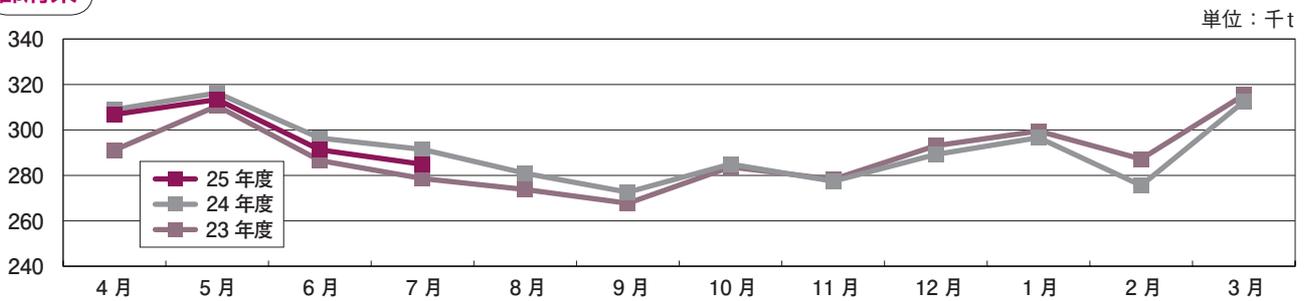
## 受託販売乳量

全国	609,366t で、前年同月に比べ 10,610t(1.7%) 減少した。	都府県	284,887t で、前年同月に比べ 6,554(2.2%) 減少した。
北海道	324,479t で、前年同月に比べ 4,057t(1.2%) 減少した。		

### 北海道

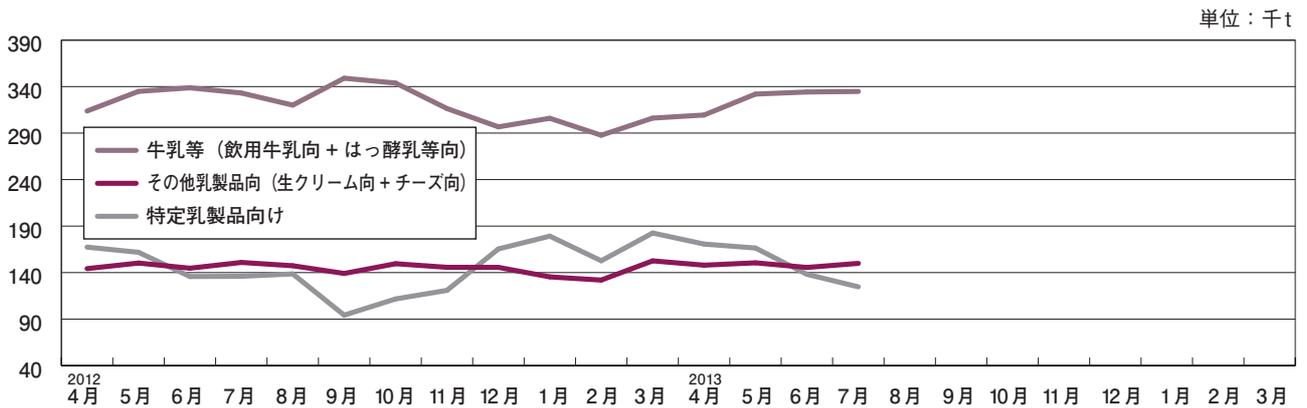


### 都府県



## 用途別販売数量

飲用向	289,926t で、前年同月に比べ 692t(0.2%) 増加した。	チーズ向	40,055t で、前年同月に比べ 478t(1.2%) 増加した。
はっ酵乳向	44,828t で、前年同月に比べ 984t(2.2%) 増加した。	特定乳製品向	124,691t で、前年同月に比べ 11,297t(8.3%) 減少した。
クリーム向	109,865t で、前年同月に比べ 1,467t(1.3%) 減少した。		



## 各地の需給動向

\*前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

- 【仙台】 7月生産は前年比97.9%。飲用向けの需要は前年比98%と、若干減少幅を縮小した。発酵乳は引き続き好調を維持し、前年比111.5%。特定乳製品向けは前年比81.7%と大きく減少。
- 【関東】 生産は上旬の猛暑の影響で中旬は激減したが、下旬は過ごし易い日が続きV字回復。7月全体では98.4%となった。一方販売では、飲用牛乳向けが103.1%と引き続き昨年の不振の裏返しで、4か月連続で前年を超えた。その結果、特定乳製品向けは72.9%と大きく前年を下回った。
- 【東海】 生産は上旬から中旬にかけ減少、下旬に回復。7月全体では前年比97.2%となった。
- 【近畿、中国、四国】 7月生産は概ね経過通りスタートしたものの、中旬に急落。その後横ばいから若干回復し、計画との乖離が大きくなった。7月全体では近畿95.1%、中国97.9%、四国97.8%となった。一方需要は、生産減少の影響もあり中旬は逼迫したが、下旬には落ち着いた。(飲用牛乳向け前年比: 近畿95.0%、中国98.2%、四国99.6%)。
- 【九州】 生産は中旬に大きく減少し、下旬に回復。7月全体では97.7%と前年を下回った。販売は飲用牛乳向けが97.6%、特定乳製品向けが81.7%と減少傾向。一方生クリーム向けは100.8%と引き続き増加傾向となった。

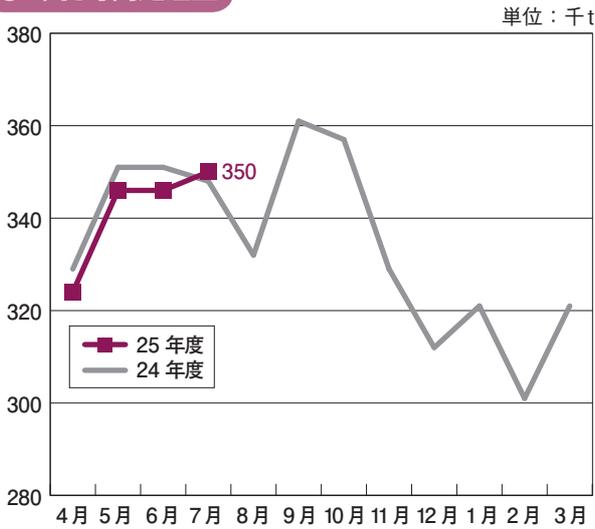
# 用途別生乳処理量

単位：千t

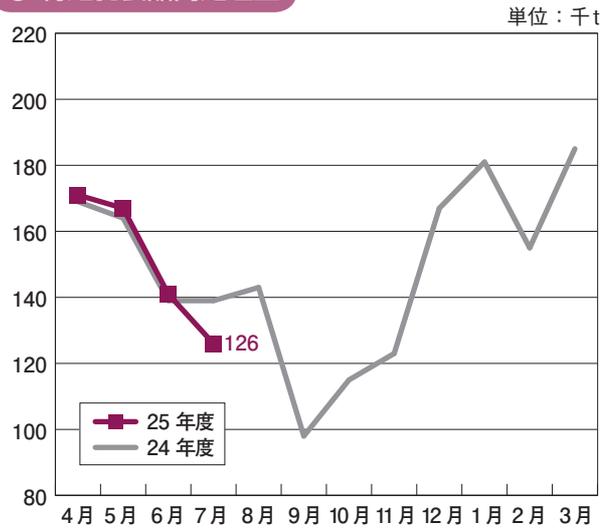
年月	生乳生産量	用途別処理量計							年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①	乳製品向		その他乳製品向			牛乳等向 ①			特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向					
			特 定 乳製品向 ②	ク リ ー ム 向 ③	チ ー ズ 向 ④	ク リ ー ム 向 ③	チ ー ズ 向 ④										
2012. 4月	649	645	329	316	169	147	106	42	2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44
5月	671	667	351	316	164	152	108	45	5月	671	666	346	320	167	153	107	46
6月	642	637	351	286	139	147	106	41	6月	638	633	346	287	141	147	105	42
7月	644	639	348	291	139	153	111	42	7月	632	627	350	278	126	151	109	42
8月	630	625	332	293	143	149	107	43	8月								
9月	604	599	361	238	98	140	106	34	9月								
10月	628	623	357	266	115	151	111	40	10月								
11月	605	600	329	271	123	147	109	39	11月								
12月	632	627	312	315	167	148	108	40	12月								
2013. 1月	644	639	321	319	181	138	96	42	2014. 1月								
2月	595	590	301	289	155	134	96	38	2月								
3月	664	660	321	339	185	155	113	41	3月								
年度計	7,608	7,550	4,012	3,538	1,777	1,761	1,276	485	年度計	2,592	2,573	1,366	1,206	605	601	427	174

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

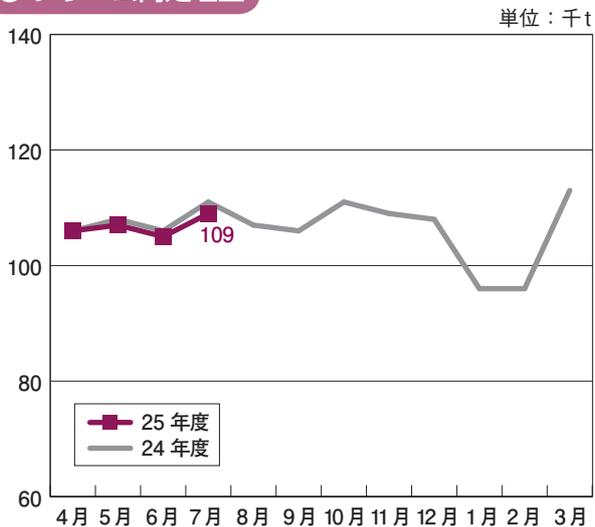
## ① 牛乳等向処理量



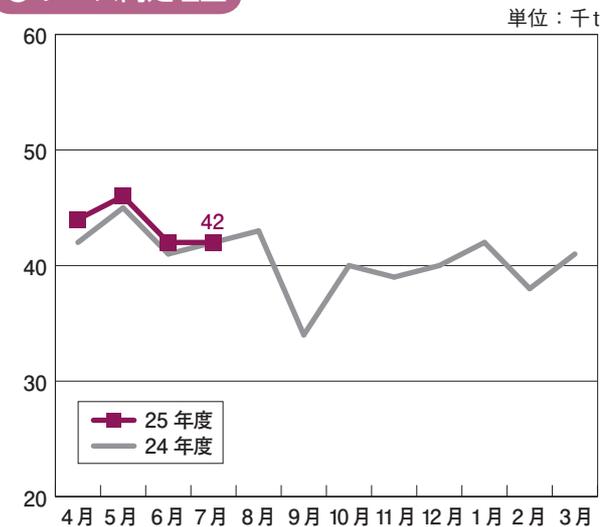
## ② 特定乳製品向処理量



## ③ クリーム向処理量



## ④ チーズ向処理量



## 特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

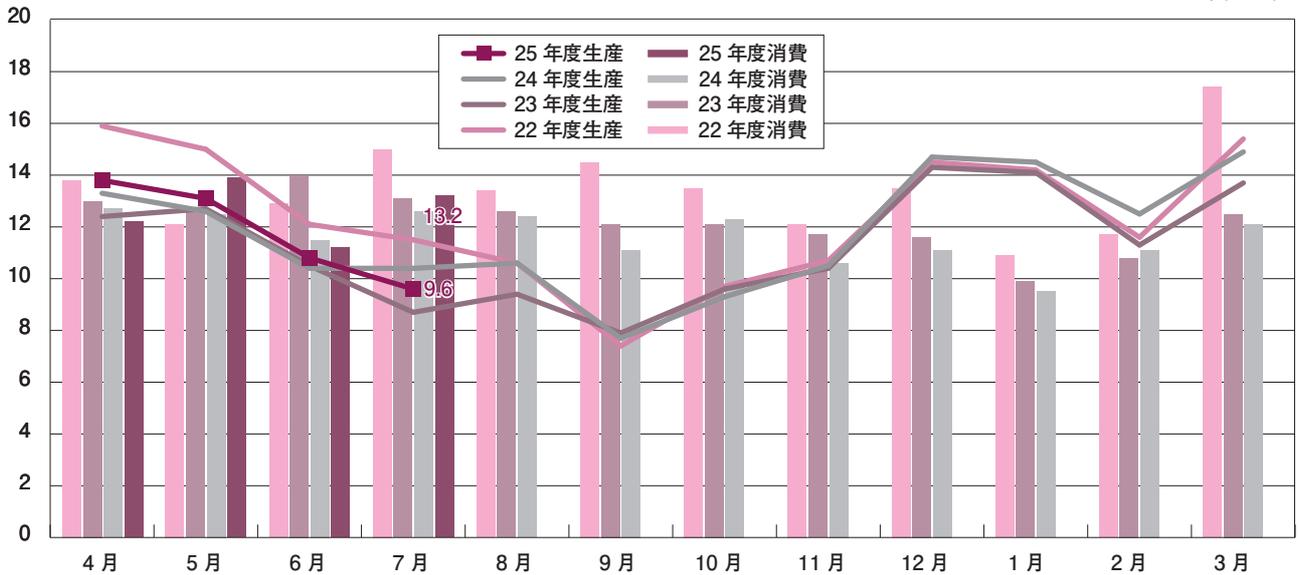
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2012. 4月	13.3	12.7	6.7	6.4	2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1
5月	12.6	12.5	6.5	6.4	5月	13.1	13.9	7.0	5.5
6月	10.4	11.5	5.5	6.8	6月	10.8	11.2	5.7	5.8
7月	10.4	12.6	5.4	6.2	7月	9.6	13.2	5.1	5.8
8月	10.6	12.4	5.6	6.0	8月				
9月	7.7	11.2	3.7	5.8	9月				
10月	9.3	12.5	4.3	5.6	10月				
11月	10.5	10.9	4.8	7.4	11月				
12月	14.7	11.1	6.2	7.8	12月				
2013. 1月	14.5	9.5	7.6	4.8	2014. 1月				
2月	12.5	11.1	6.3	6.0	2月				
3月	14.9	12.1	7.4	6.1	3月				
年度計	141.4	140.2	70.1	75.3	年度計	47.2	50.5	24.8	23.2

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

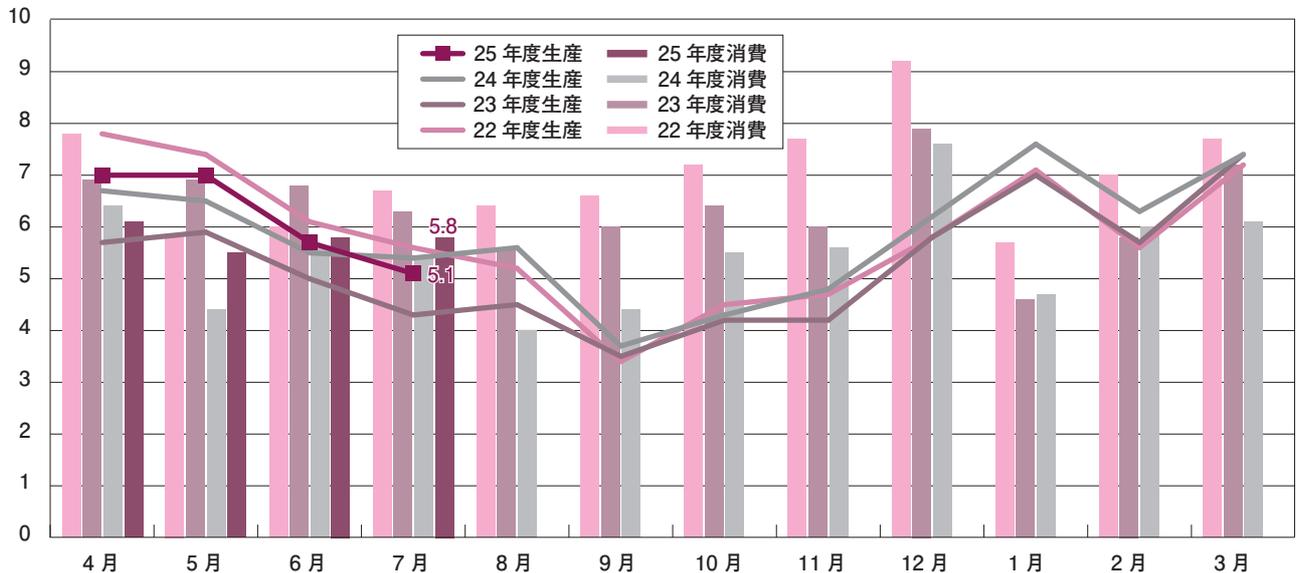
### 脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



### バターの生産及び出回り量推移

単位：千t



## 脱脂粉乳・バター国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

区分	バター		脱脂粉乳		区分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2012. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2013. 4月	24.4	1,177	51.0	600.65
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	25.8	1,178	53.2	600.50
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	25.7	1,178	53.0	599.96
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	25.0	1,177	50.7	600.19
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月				
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月				
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月				
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2013. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2014. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				

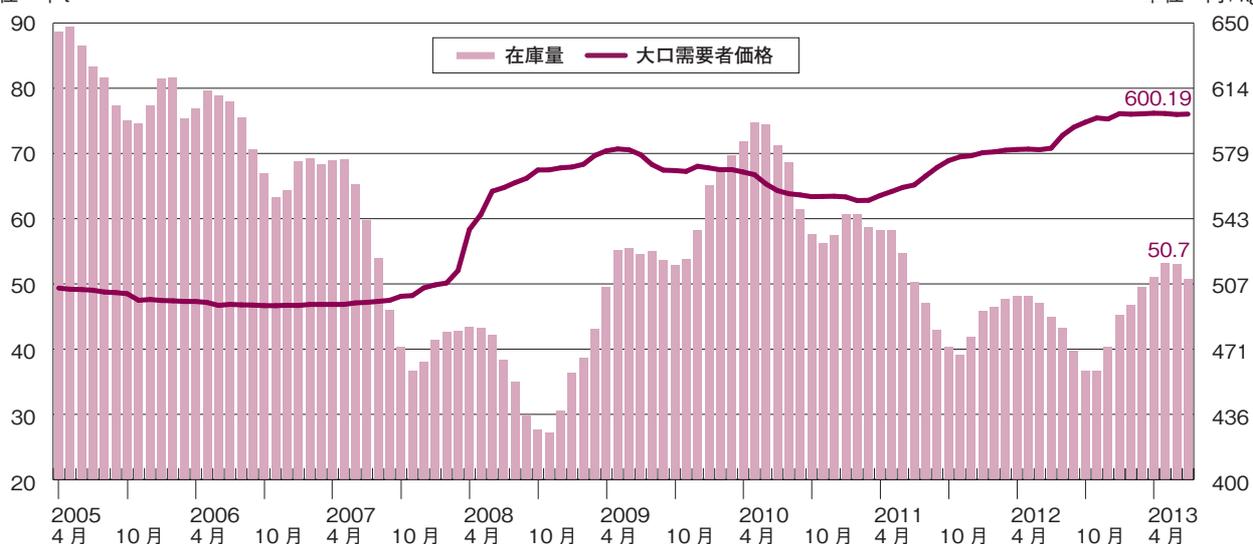
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

※単価は税抜き

### 脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：千t

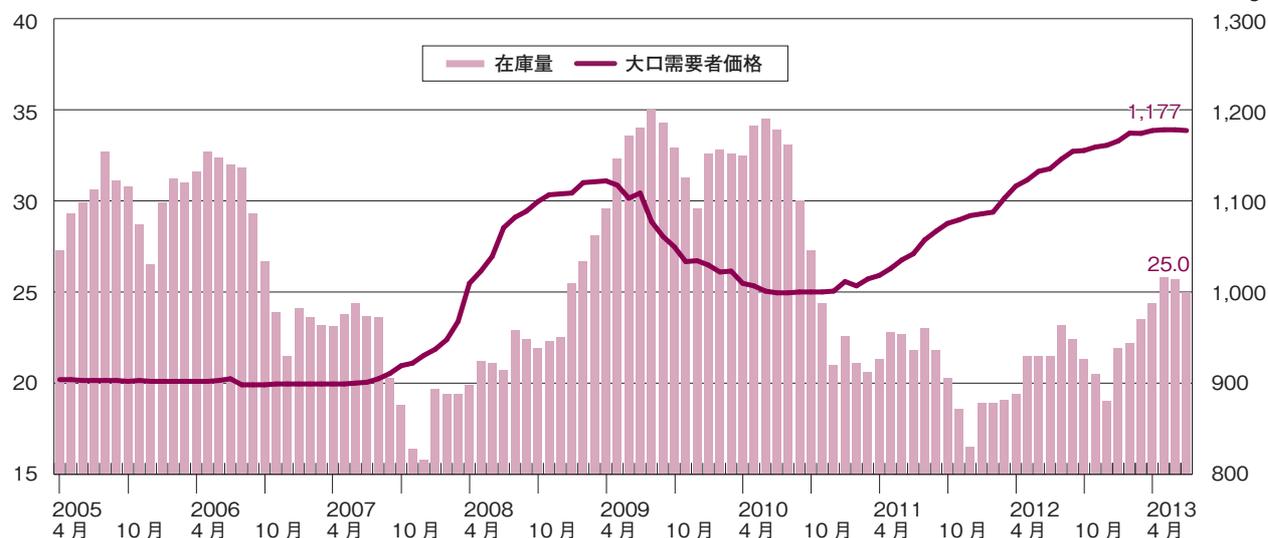
単位：円/kg



### バター 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：千t

単位：円/kg



# 酪政連活動報告

平成 25 年 6 月～ 25 年 8 月

日本酪農政治連盟

6/17	<b>テレビ朝日取材</b> (副委員長ほか) ◆ TPP 参加による酪農への影響、対抗手段等について	8/5	<b>TPP 対策本部説明会</b> (委員長、幹事長) ◆ TPP 交渉報告と意見交換
6/20	<b>自民党畜産・酪農対策小委員会</b> (幹事長ほか) ◆ 配合飼料高騰対策について ◆ 7～9 月補てん金財源不足への支援対策の件	8/6	<b>TPP 交渉における国益を守り抜く会</b> (委員長、幹事長) ◆ TPP 交渉報告と意見交換  国益を守り抜く会で農業団体からヒアリング
6/21	<b>自民党畜産・酪農対策小委員会</b> (副委員長、幹事長ほか) ◆ 配合飼料高騰対策について(報告) ◆ 補てん不足財源を国とメーカーが 1:1 で対応 ◆ メーカーには国の事業で後押しする	8/20	<b>三役会議、合同委員会</b> ◆ 平成 26 年度酪農政策・予算確保、税制改正に関する要請について ◆ 要請内容について意見交換後承認 ◆ それぞれ地元国会議員へ要請活動実施 ◆ 三役は江藤拓副大臣、長島政務官へ要請  江藤副大臣を訪ね要請
6/25	<b>三役会議、合同委員会</b> ◆ 今後の酪政連活動について ◆ 全国より酪農経営の窮状の訴えがあり、大会等開催すべしとの意見 ◆ 7 月 31 日開催の方向で詰めることになった	8/21	<b>自民党農林部会等合同会議</b> (委員長、副委員長、幹事長ほか) ◆ 平成 26 年度予算概算要求、規制改革会議、TPP 状況について ◆ 農水省、内閣官房より説明、意見交換
6/28	<b>TPP 対応検討幹事会</b> (幹事長) ◆ TPP 政府対策本部への意見、要望等の件 ◆ 今後の活動について	8/21	<b>自民党畜産・酪農対策小委員会</b> (委員長、副委員長、幹事長ほか) ◆ 平成 26 年度畜産酪農関係予算概算要求について ◆ 農水省より報告、説明、意見交換
7/4	<b>参議院議員選挙山田俊男候補出陣式</b> (委員長、幹事長ほか)		
7/5	<b>三役会議</b> ◆ 今後の酪政連活動について ◆ 酪農経営の窮状と将来不安払拭等を訴えるための大会の開催を決定 ◆ TPP 交渉(マレーシア)に委員長、副委員長、幹事長が渡航		
7/22 ～ 26	<b>TPP 交渉開催地【マレーシア】へ渡航</b> (委員長、副委員長、幹事長) ◆ 情報収集、議員外交、交渉団への応援		
7/31	<b>三役会議、日本酪農を守る・全国酪農民大会</b> ◆ 全国より 700 人弱の動員、来賓国会議員は 54 人 ◆ 集会と約 1 時間のデモ行進 ◆ 酪農経営の窮状、将来不安の払拭等の訴え		
8/2	<b>TPP 対策委員会他合同会議</b> (委員長、幹事長) ◆ TPP 交渉報告と意見交換		

# 北海道 乳牛産地情報

平成25年9月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	28~32	→	8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計94.4%、累計で99.9%、苫小牧管内月計で93.8%、累計で96.6%の実績となり前年を下回る状況。9月の初妊牛動向は、管内生乳生産量の減少やF1初生牛価格の高騰により、和牛腹を中心にやや強含みの相場になるものと思われる。都府県の需要は、メガファームを中心に依然として続いており、今後も大きな変化は無いように思われます。育成牛及び経産牛につきましては、高値安定の状況になるものと思われま
	初妊牛	48~53	▼	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~37	→	8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で98.4%、累計で101.2%、中標津管内月計で95.8%、累計で99.4%の実績。9月の初妊牛動向は、年内産み中心で動く予想され、価格も全体的に底上げの予想です。客足もまだ少ないものの、内地メガファームの購買意欲が旺盛で、価格相場に影響しております。また、F1腹が高値を維持し、ホルズ腹との価格差が顕著になりつつあります。道東地域は育成農家が他地域より少なく資源的に余裕がないため、購買予定がありましたら、早めの手配をお願いします。
	初妊牛	50~56	▼	
	経産牛	40~47	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で99.1%、累計で100.8%の実績。9月の初妊牛動向につきまして、秋分産中心となり、都府県からの導入希望に加えて、道内でのメガファームの導入もあり、需要が強くなるものと思われま
	初妊牛	49~55	▼	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚管内月計で97.3%、累計で101.3%、北見管内月計で98.2%、累計で100.6%の実績。9月の初妊牛動向につきましては、猛暑の分娩時期も過ぎて秋分娩の時期となり、都府県から需給動向や価格動向の問合せが多くなってきています。道内酪農家は猛暑による乳量減少から初妊牛購買も積極的で、家畜市場では価格も徐々に強含みで推移しています。
	初妊牛	47~54	▲	
	経産牛	35~40	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	29~34	→	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は月計で97.4%、累計で100.3%となり、天候不順の影響もあり2ヵ月連続で減少しています。9月の初妊牛動向につきましては、生乳生産量の減少を受け、荷動きが活発になってくると思われます。特にギガファームの導入意欲は強く、F1腹を中心に高値が予想されます。分娩腹は11月以降が中心となりますが、近いほど需要が高い状況ですので、早めのご連絡をお待ちしております。朝夕の気温変化が激しくなっておりますので、購買の際は、服装にお気を付け下さい。
	初妊牛	49~55	▼	
	経産牛	42~47	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

## 今月の表紙

### 「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品

今月の表紙は、「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」(第42回全国発表大会にて開催)で入選された作品(北海道 富岡 一也氏 撮影)です。搾った乳をそのまま口に運ぶ様子が、絶妙なアングルで撮られています。とても良い笑顔ですね。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼連日最高気温が35℃を超える猛暑日が続く、人にも牛にも堪える日々が続いています。熱中症にはくれぐれもご注意ください。  
 ▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

編集後記



### お詫びと訂正

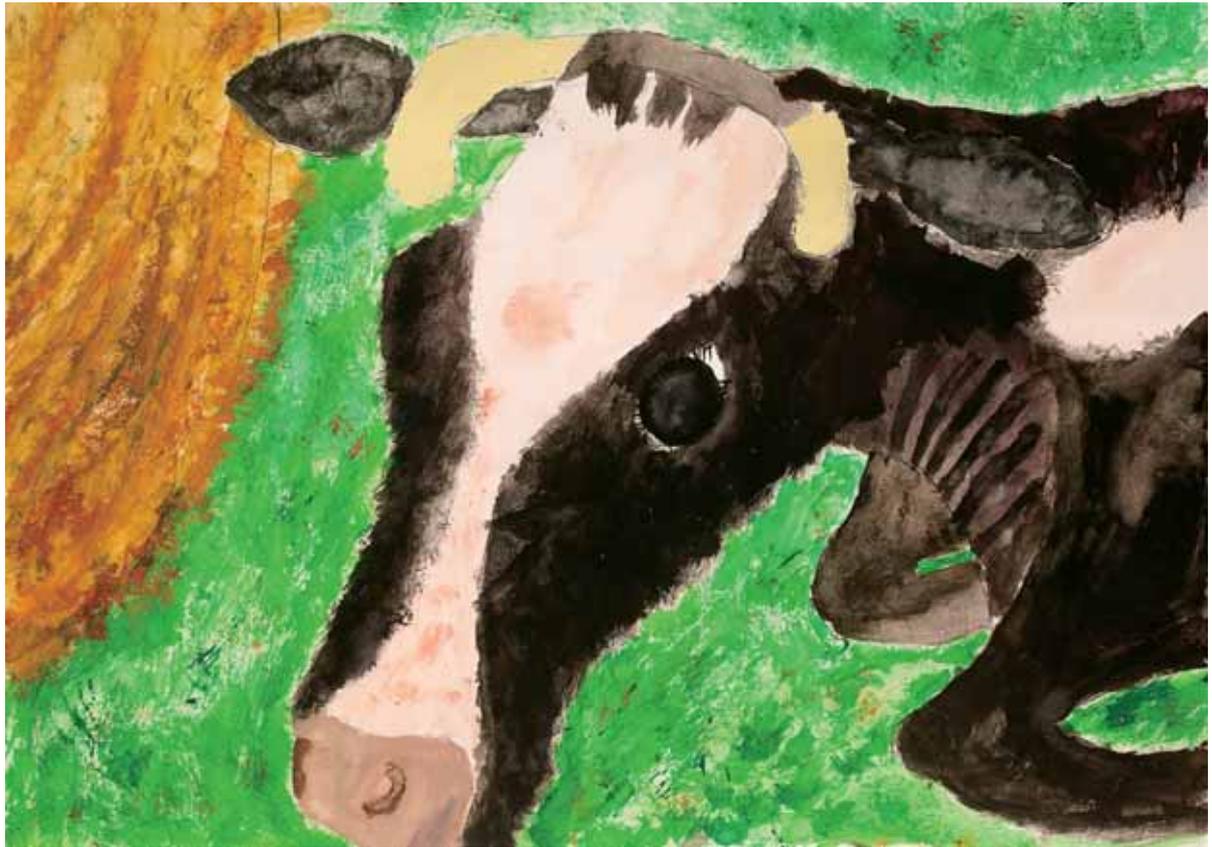
本誌6月号3、4頁及び8月号9頁に掲載しました「第42回全国酪農青年女性酪農発表大会」の記事、8月号26頁に掲載しました人事異動記事の中で誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

<誤> 東北代表 橋本さんの題名「地域と共に歩む酪農」 → <正> 「地域と共に歩む酪農経営」  
 <誤> 狭山工場 品質管理課長 今野 渉 → <正> 金野 渉

平成25年9月10日発行(毎月1回10日発行)

**ZENRAKUREN**  
 MEMBER'S INFORMATION  
 全酪連会報 9月号 No.576

●編集・発行人 中島 裕志郎  
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会  
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号  
 TEL 03-5931-8003  
<http://www.zenrakuren.or.jp/>



### 牧草ロールと牛

馬場川小学校(北海道)5年 横山 恵也

今月の



## 入賞作品紹介

**今**月の入選作品は、馬場川小学校(北海道)5年の横山 恵也さんの「牧草ロールと牛」です。

つぶらな瞳が印象的な水彩画の作品です。牛さんの黒色の部分に紫や青など様々な色を巧みに使って色彩に幅を持たせています。牧草ロールの干草の乾燥した表現にも色使いやタッチに独創性が感じられます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第40回らくのうこどもギャラリー」で全国377点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議